

## 関大生による本の帯プロジェクト「オビプロ」の実施について

新谷 大二郎

2019年度、関西大学図書館では、株式会社創元社、紀伊國屋書店株式会社と協働し、「新入生に贈る100冊」の関連企画として、関大生による本の帯プロジェクト「オビプロ」を実施した。その結果を以下のとおり報告する。

### 1 概要

「オビプロ」とは、2020年度「新入生に贈る100冊」のラインナップを飾る本学OG ブローレンヂ智世氏（文学部 心理学専修・2015年度卒業）の著書『ワンピースで世界を変える!』（以下、「本書」という。）の本の帯を後輩である関大生が手掛け、最優秀作品が全国の書店に並ぶというものである。

### 2 参加者

11名

### 3 実施内容

「オビプロ」は、全体を4つのステップに分けて実施された。4つのステップとは、「LECTURE」「WORK」「CONTEST」「COMMENT」である。それぞれのスケジュール、内容については、以下に詳述する。また、この各ステップとは別に、参加者は事前に本学のインフォメーションシステムのアンケート機能を用いて募集した。

#### (1) LECTURE

2019年11月6日(木) 14:40～16:10

於：総合図書館ワークショップ・エリア

「LECTURE」のステップでは、本書の編集者を講師として、参加者に対して、特徴的な事例を示しながら、帯を作成するための事前説明を行った。事前説明の内容は、帯を作成するにあたっての基本的な技術、本書の帯に記載する文章の表現上の注意などであった。また、このステップでは参加者に任意の本の帯を作成してもらうよう事前課題を課し、その成果物について、講師から指導、助言を行った。

#### (2) WORK

2019年11月6日(木)～11月17日(日)

「WORK」は「LECTURE」の内容を踏まえて、参加者が自身の作品を作成するために設けた期間である。参加者には、「LECTURE」終了時に本書の原稿を渡し、それを読んだ上



で、作品を提出するように案内した。作品は、本書の発行元である創元社と協議の上、キャッチフレーズと紹介文を含めて200字以内とすることにした。

「LECTURE」の後、ほとんど間を置かずに提出があったり、締め切り間際まで提出されなかったりと、作成期間は参加者によってまちまちであったが、結果的には、無事参加者全員から提出があり、いずれも本プロジェクト関係者の誰もが認める力作揃いであった。

#### (3) CONTEST

2019年11月21日(木)～12月1日(日)

「CONTEST」は「WORK」で参加者から提出してもらった作品を、関係者および学内外の一般の方に評価・投票してもらうために設けた期間である。

投票については、関西大学図書館ウェブサイト内に「オビプロアンケート特設ページ」として案内ページを設け、そこから本学インフォメーションシステムを利用した投票フォーム（ここに各作品を掲示し、作品を見ながら投票できるようにした。）に案内、学内と学外とを分けて投票を受け付ける形とした。

投票総数は593件、うち学内者からの投票は108件、学外者からの投票は485件という結果であった。余談ではあるが、「本プロジェクトを何で知ったか?」というアンケート項目に対して、最も回答が多かったのが「教員・友人等からの案内」であり、各ウェブ媒体によるという回答とほぼ同数の結果であった。口コミの効果は侮れないということであろう。

#### (4) COMMENT

2019年12月11日(水) 14:40～16:10

於：関西大学総合図書館ワークショップ・エリア

「COMMENT」は「CONTEST」の結果を踏まえて、参加者に提出作品に対する講評、結果発表を行う場として設定した。参加者に贈る賞としては、実際に本書の帯となる最優秀賞だけでなく、関西大学学長賞、紀伊國屋書店賞、投票の結果により決める一般投票第1位を用意した。各受賞者には、賞状と副賞の記念品を授与し、その他の参加者にも記念品を贈呈した。各受賞者については、以下のとおりである。

最優秀賞 大西珠生さん（総合情報学部3年次生）

関西大学学長賞 畑明日香さん（社会学部4年次生）

紀伊國屋書店賞 久保まなさん（総合情報学部2年次生）

一般投票第1位 河村有紗さん（社会安全学部2年次生）

「COMMENT」では、「LECTURE」に引き続き本書の編集者から各作品への個別講評およびプロジェクト全体に関する講評を行い、それとは別に各賞のプレゼンターによる講評も行った。最優秀賞のプレゼンターは著者であるブローレンヂ智世氏に務めて頂いた。

受賞者については上記のとおりであるが、「COMMENT」後の創元社との協議の結果、最優秀賞以外の作品についても、本書の巻末ページに掲載されることになった。

#### 4 成果

「新入生に贈る100冊」から連なる目的としての読書推進および図書館の利用促進を図ることに関しては、熱心な11名の参加者を得、その力作を通じてCONTESTに関するところだけでも593件もの反響があったことを鑑みると、一定の成果があったものと思われる。図書館においても、実際に出版にまでつながるプロジェクトを通じて、出版社や書店との協働企画に関する知見を深め、今後の企画を検討するにあたっての貴重な機会とすることができたと感じている。また、参加者についても、実際に出版される著書に使用される帯に自身の作品が掲載されるということから高い動機づけで本プロジェクトに参画している様子が見受けられ、得難い機会となったのではと思われる。

#### 5 参加者の作品

それぞれ上段がキャッチフレーズ、下段が紹介文。

##### (1) 河村有紗さん（社会安全学部2年、一般投票第1位）

ワンピースは誰のもの？

僕だって可愛くなりたい！

男性がワンピースを着てはいけないなんて誰が決めたんだ



ろう。ビジネスを学ばないと起業できないなんて誰が決めたんだろう。この本を読み終えた時、「自分らしく」自由に生きて良いんだと気付かされ、押し付けられた枠なんか飛び出してしまおうと勇気が出た。もう隠す必要はない。だってこれが私だから。さあ、好きな服を着て、みんなで世界を変えよう。

##### (2) 久保まなさん（総合情報学部3年、紀伊國屋書店賞）

服に性別なんてない。

これは女性が着る服だって誰が決めたのか。着たい服を着たら幸福な人生が始まる。お気に入りの服を着てお出かけする日は朝から気持ちが晴れやか。そんな経験、あなたにもありませんか？「服の常識を変えれば性別の常識も変わる」そのような想いからアパレルブランドを立ち上げた専業主婦の奮闘を描いた本作。彼女は夢の道半ば。この続きをあなたも見てみたくなりませんか？

##### (3) 大西珠生さん（総合情報学部3年、最優秀賞）

ワンピース≠女性だけの服

この発想は見事に人を動かした。

市場のスキマに挑んだ1人の女性の起業記録。

「智世ちゃんはどうしてみんなと同じことができないの？」そう言われた少女が成長した時、やはりみんなと同じことはしなかった。メンズサイズの可愛いお洋服を作りたい！！だけど、お金なし、ノウハウなし、人脈なし。そんな彼女がどのようにして自分のブランドを持ち、なぜ東大安田講堂でファッションショーを開催できるようになったのか？がむしゃらに走り続ける起業家の成長記録。もちろん、未だ成長中。

##### (4) 加藤菜乃さん（社会学部3年）

「着たい服を着ればいい」

そう言うための服たちを世に送る

“メンズサイズの可愛いお洋服”をコンセプトに立ち上げたファッションブランド、ブローレンヂ。起業してから1年、2018年6月、東大安田講堂でファッションショーを行いました。つい最近まで専業主婦、お金はない、人脈もない、ノウハウだって勿論ない。それでも信念を持って動けば、なんだってできる。生い立ちから起業、クラウドファンディングで資金集めに奔走する様子まで。いちばん身近な起業エッセイです。

(5) 畑 明日香さん (社会学部4年、関西大学学長賞)

ファッションから性別の壁を取っ払え！

「メンズサイズの可愛いお洋服」で

“常識”を覆す女性の奮闘記

男性的な骨格を持つ人でも着られるレディース服を提供するアパレルブランド・ブローレンヂの立ち上げには、様々な困難が立ちちはだかる。資金調達、工場探し、在庫の山……。それでも乗り越えられるのは、「誰もが着たい服を着られる世の中に！」という熱い思いがあるから。著者の生い立ちからブローレンヂ初のファッションショーまでをつづる、疾風怒濤の起業エッセイ。読後、著者の溢れんばかりのエネルギーが、あなたの心にも届くはず。

(6) 滝口満理奈さん (文学部1年)

誰もが着たい服を“あたり前”に着られる世界に。

～現在奮闘中の女性の起業エッセイ！～

元は喜劇を志し、高校卒業とともに大阪へ。でも、初勤務はブラック会社！仕事に明け暮れる日々は転職しても変わらず…。夫との出会い、結婚、大学進学。しかし院に向けて勉強中、自分は物作りがしたい！と気づき…。心理学の「錯視」を生かし、男性的体型の人でも着こなせる女性服作りを開始！市場調査にニーズ分析、資金調達や縫製工場探しと初めてのことばかり。しかも、最初は全く売れなくて…。数年前まで服作りに全くの素人。起業について何も知らない、お金も人脈もなかったごく普通の専業主婦が自身のブランドを立ち上げ、東大でファッションショーを開くまでのお話。

(7) 小山咲良さん (法学部3年)

誰が着るワンピースも「可愛い！！」

と叫びたくなる本

“あなた、そしてわたしは、

ありのままを纏っていい”

『ワンピースで世界を変える』世界を変えるのはワンピースではなく、“ワンピースを着た自分自身”であり、“ワンピース姿の誰かを見た世界のみんな”です。誰が着るワンピ

ースもとっても可愛い世界。私もそんな世界を生きてみたいです。性別のみならず、自分の人と違う部分や欠点さえも“らしさ”だと知り、素直に受け止め、大切にしたい、表現したいと思うことができる、とっても素敵な本です。

(8) 中井菜以さん (社会学部3年)

「錯視を活用した前例の無い

ファッションブランドを起業」

“着たい服が着られない”そんな悩みを解決し、自分らしく生きる手助けをする「メンズサイズの可愛いお洋服」を考案。資金なし・知識なし・人脈なし。ごく普通の専業主婦が大学で認知心理学を学び、ブランドを立ち上げ、たった1年でファッションショーを開催するまで。資金調達方法からメディアを利用した宣伝活動・ECサイト立ち上げまで全ての情報を掲載。起業してからも苦難の連続「ブランド設立後1ヶ月半、1着も売れませんでした……」

(9) 村森萌果さん (法学部3年)

だから私達は挑戦することをやめない

なりたい自分になるために一步を踏み出すことは、単純でいて難しい。世間の目とか、不安定さとか、もしも失敗したらとか、様々な心配が付きまとう。大学を卒業してすぐに起業活動に取り組み始めたものの、資金もコネも経験もない智世さんは沢山の問題に打ち当たり、日々、解決のために東奔西走。起業してからも問題は山積み。それでも、信念のような熱い目標のために、今日も智世さんは走り続けている。一步を踏み出すことは怖い。だけど、踏み込んだ先が泥沼でも、茨の道でも、過去に歩いてきた道が消えるわけじゃない。自分のその一步が、誰かの助けになるかもしれない。「それは無駄にならんから」智世さんの背中を押したこの言葉に、私も背中を押された気がした。

(10) 伊藤由佳さん (政策創造学部1年)

私はこんな服が着たかった・・・！

源氏物語、インスタントラーメン、3Dプリンター。一見、共通点がなさそうなもの…共通点が分かりますか？これらは世界を変えた日本の発明品です。ここに1秒後なのか100年後なのか分からないけれども、将来加わるもの…それはワンピース！ワンピースで世界を変える!! アパレル店員、キャバ嬢などを経験した後、専業主婦に。25歳で関西大学に入学し、心理学を学ぶ。29歳で大学を卒業後、“メンズサイズの可愛いお洋服”がコンセプトのブランドを立ち上げるが、資金調達や知名度に苦勞する。数々の困難を乗り越えながらも東大でファッションショーを開くことになった波乱万丈の起業エッセイ！



(1) 寺本南椎さん（文学部4年）

「こうあるべき」に従順であるな！

企業の仕方をネット検索、市場調査はSNS!? 経験なし、資金なし、人脈なしの普通の主婦だった著者がブランドを立ち上げ、ファッションショーを開催するまでを描いた、等身大でリアルな起業エッセイ。自分に素直であるために、常識やルールに縛られる必要はなし！ 困難にぶつかっても、乗り越え、突き進む著者の姿に自分も一歩踏み出したくなる！



(しんたに だいじろう 図書館事務室)